

令和 4 年度 大阪夕陽丘学園高等学校 学校評価

1 めざす学校像

- ・自律した学習者の育成
- ・自らの価値を高め、自分事として行動できる生徒の育成

2 中期的目標

- 1 魅力ある学校づくり
  - (1)スクールポリシーの作成
  - (2)組織改編
  - (3)言語技術研究所の準備
  - (4)海外大学との連携
  - (5)教職員の研修会の実施
- 2 自律した学習者の育成
  - (1)アントレチャレンジキャンプ実施に向けた取り組み
  - (2)ルールメイキングプロジェクトに参加
  - (3)自習室の活用
  - (4)生徒会活動の活性化
  - (5)SDGs 活動の実践
- 3 新学習指導要領実施に向けた取り組み
  - (1)新学習指導要領の実践
  - (2)コースの特色の強化
  - (3)主体的学びの実践
  - (4)教員同士の学び合いの実践
  - (5)探究活動の研修会の実施

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

| 自己評価アンケートの結果と分析 [令和 5 年 2 月実施分]  | 学校評価委員会からの意見   |
|--|--|
| <p>○生徒・保護者<br/>           ・35 項目中 26 項目で「よく当てはまる」「やや当てはまる」の肯定的な回答という結果になった。令和 3 年度は 32 項目、令和 2 年度は 33 項目、平成 31 年度は 32 項目、平成 30 年度は 18 項目と比較すると、ここ 3 年間続いた学校の取り組みが生徒・保護者に理解が薄れつつある。また、生徒・保護者の理解を上げる為の努力が必要である。<br/>           ・私立学校として一番大切な「私は建学の精神を知っている」の項目が「よく当てはまる」「やや当てはまる」の肯定的な回答が 50%を超えたところになっている。これもここ数年同じ数値となっている。普段の学校活動において、建学の精神を意識できるような取り組み、工夫が出来ておらず、具体的なコンピテンシーみたいなものを示す必要性あると思われる。</p> <p>○教職員<br/>           ・35 項目中 31 項目で「よく当てはまる」「やや当てはまる」の肯定的な回答という結果になった。令和 3 年度は 26 項目。令和 2 年度は 29 項目に対して増加している。ここ数年、専任講師は年 4 回、専任教諭は年 2 回の教員研修会を実施しており、学校の方向性理解が深まり、教育活動が展開出来ていると考えられる。</p> <p>特徴的な項目は「私は建学の精神を知っている」で「よく当てはまる」と回答した教員が 100%に満たなかったのが残念であるが、非常に高い数値を示している。生徒・保護者の数値との乖離がある。「建学の精神」を指導する場面が少ないという意味を表しているように思われる。</p> <p>【分析】<br/>           ・ここ数年間、教員同士のつながりの項目が低い数値になっているのが気がかりであり、改善が見られないし、改善できる要素も見つけ出せずにいる。なんらかの対応策が急務な課題のひとつとなる。<br/>           ・読書の指導が出来ていない。母国語教育に今後力を入れていきたいと考えている。今年度から「言語技術教育」を開始した。改善に期待する。</p> | <p>○全般<br/>           ・建学の精神や(2)私学としての状況は、非常に重要な項目ですので、生徒・保護者への周知をより一層改善していただく必要があると考えます。<br/>           ・教員間の連携についても、評価が高くありません。教員間のコミュニケーション不足や、協力関係の欠如が背後にあるのであれば、それを是正するより具体的な施策が今後さらに検討されるべきでしょう。<br/>           ・ランティア活動については、教員、保護者・生徒ともに評価されておらず、さらなる改善が求められると考えます。ただ、これらは毎年のことですので、学校としてはあまり注力していないものと理解しています。</p> <p>○教科教育<br/>           ・低学力生徒の指導についてはほぼ教員と保護者・生徒の結果が同様であり、この点も、授業についていけない生徒へのフォローがさらにきめ細やかになされているものと思われます。このように、全体的に教科教育については適切になされているように感じます。他方、全体として教員による評価に比して、生徒・保護者の評価が高くない結果が出ているように思われます。この点は、教員ひとりよがりにならないようさらなる改善が望まれます。<br/>           ・読書教育が毎年いこうに向上せず、保護者・生徒・教員とも低い数値となっています。必要な教育と考えているなら改善策に本気で取り組み必要性がある。もし、高等学校の教育として、本人に任せる教育姿勢をとるなら項目から外して、違う物差しで教科教育を図る方向性が必要である。</p> <p>○生徒指導<br/>           ・生徒からの信頼について保護者・生徒の評価よりも教員が否定的な割合が高いのがやや気になります。生徒のコミュニケーションは教員の業務の本質ですので、教員自身がもう少し高い評価を持てることが望まれます。<br/>           ・クラス運営については高い評価がなされているといえますが、問題行動については、保護者・生徒について教員ほどの高い評価になっていません。この点は原因を究明しておく必要があると考えます。</p> |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標                       | 今年度の重点目標   | 具体的な取組計画・内容   | 評価指標   | 自己評価  |
|-----------------------------|--|---|--|---|
| 1<br>魅力ある学校づくり              | (1)スクールポリシーの作成<br>㊦建学の精神を理解する<br>①生徒に見つけてさせたい資質の確認<br>㊦「幸せになる」が最終目標<br>(2)言語技術教育の完成<br>㊦言語技術研究所の設置<br>①身に付ける力の精査<br>㊦言語技術教育内容シラバスの作成     | (1)スクールポリシーの作成<br>㊦建学の精神を読み込む<br>①未来の予測し、必要な資質を考える<br>㊦各個人が「幸せ」になる為に今身に付けたいと資質を探す<br>(2)言語技術教育の完成<br>㊦研修会参加者の増員<br>①先進実施校の視察<br>㊦本校生徒の特長を把握する | (1)スクールポリシーの作成<br>㊦スクールポリシーが完成<br>①建学の精神を現代版に読み替える<br>㊦「幸せ」になる為の資質を理解する<br>(2)言語技術教育完成<br>㊦具体案の作成する<br>①研修会への参加を決定める<br>㊦3つ以上の外部団体と連携する        | (1)スクールポリシーの作成<br>・スクールポリシーが完成した<br>・建学の精神を現代版に読み替えた<br>・今身に付けたいと資質を理解した<br>(2)言語技術教育完成<br>・1年間のカリキュラムが完成した<br>・4名が研修会に参加した<br>・3つ以上の外部団体と連携できた                                     |
| 2<br>自律した学習者の育成             | (1)アントレチャレンジキャンプの完成<br>㊦1年間の内容の精査、決定する<br>①行先の決定<br>㊦振り返りレポートの課題<br>(2)ルールメイキングプロジェクトの実施<br>㊦校則の読み込み<br>①外部機関での発表<br>㊦全校生徒を巻き込む仕組みづくり    | (1)アントレチャレンジキャンプの完成<br>㊦授業の確立<br>①業者との打ち合わせ<br>㊦3学期の授業内容の確立<br>(2)ルールメイキングプロジェクトの実施<br>㊦教員と生徒の対話の機会を増やす<br>①各専門家との意見交換<br>㊦ティーパーティーの実施        | (1)アントレチャレンジキャンプの完成<br>㊦1年間のシラバスの完成<br>①旅行行程も含めて企画決定<br>㊦入試に対応できるものにする<br>(2)ルールメイキングプロジェクトの実施<br>㊦校則変更を3つ以上する<br>①外部で3回以上発表する<br>㊦30以上の生徒を集める | (1)アントレチャレンジキャンプの完成<br>・完成した。<br>毎年ブラッシュアップが必要<br>・決定した。<br>毎年ブラッシュアップが必要<br>・完成したが、現地活動の様子次第である。<br>(2)ルールメイキングプロジェクト実施<br>・1つも出来なかった。<br>・5回外部で発表した<br>・12人の参加者にとどまった             |
| 3<br>新学習指導要領への対応・実施に向けた取り組み | (1)コースの特色の強化<br>㊦各コースの独自の取り組みを実施する<br>①コースの特色の完成を目指す<br>㊦ICT教材の実践<br>(2)教員同士の学び合いの実践<br>㊦授業見学期間の設定<br>①コミュニケーションを活発にする<br>㊦教科を超えた学び合いの実践 | (1)コースの特色の強化<br>㊦コースポリシーの作成<br>①進学方法の確立<br>㊦アプリを使った学びの導入<br>(2)教員同士の学び合いの実践<br>㊦2週間の期間を設定する<br>①人間関係の構築<br>㊦探究活動を柱に対話のきっかけとする                 | (1)コースの特色の強化<br>㊦コースポリシーの完成<br>①受験方法に向けた学習環境の整備<br>㊦生徒同士の学び合いに活用できた<br>(2)教員同士の学び合いの実践<br>㊦1週間設定し、授業見学者を増やす<br>①職員室での対話の数を増やす<br>㊦探究科からの提案を受ける | (1)コースの特色の強化<br>・各コース完成した。<br>・まだまだ受験方法まで理解と挑戦が至っていない<br>・教員と生徒の学び合いの領域を出していない<br>(2)教員同士の学び合いの実践<br>・沢山の先生の交流が実現した。<br>・まだまだ対話が出来ていない<br>・他教科合同の授業迄発展していないが、少しずつ探究を取り入れた授業実施も見られる。 |